

国産チップ価格底上げを

林地残材850万m³を有効活用

国産材製材協会、林野庁幹部と意見交換

国産材製材協会（豆原義重会長）は17日、国産チップ問題等で林野庁幹部と意見交換を行った。国製協から、輸入チップ価格比約6割しかない国産針葉樹チップの底上げを行って欲しい等を申し入れた。これに対して林野庁側は、なんとかしなければいけないことと回答した。

国産材製材協会から、また製材工場も手出された国産針葉樹チップの上昇分を丸太購入チップに比較するのとが可能に。これらと6割程度の価格しかない国産針葉樹チップの底上げを行って欲しい。国産チップ価格が素材搬出費に見合うまで上昇すれば、林地に残されたままとなっている850万立方メートルの未利用材を活用でき

る。また製材工場も手出された国産針葉樹チップの上昇分を丸太購入チップに比較するのとが可能に。これらと6割程度の価格しかない国産針葉樹チップの底上げを行って欲しい。国産チップ価格が素材搬出費に見合うまで上昇すれば、林地に残されたままとなっている850万立方メートルの未利用材を活用でき

る。また製材工場も手出された国産針葉樹チップの上昇分を丸太購入チップに比較するのとが可能に。これらと6割程度の価格しかない国産針葉樹チップの底上げを行って欲しい。国産チップ価格が素材搬出費に見合うまで上昇すれば、林地に残されたままとなっている850万立方メートルの未利用材を活用でき



林野庁幹部と意見交換する国産材製材協会のメンバー

は昨年、林野庁から説明した話なので、なんとかしなければいけない、と答えた。

このほか国製協側は、ロシア材代替需要が国産材製品に起きていにもかわらず、素材の出材量が少なく、需要に応じきれない可能性が出ていると説明。対して林野庁側は、調査して対策を考

えたい、とした。国製協から出された意見は、国産針葉樹チップの価格は平成20年8月で輸入チップの58・3%しかなく、あまりにも格差があり過ぎる。国産チップ価格を素材搬出ができるレベルに引き上げたい。そのなれば林地残材として放置されている850万立方メートルの資源を有効活用できる。放置材が搬出されれば山はきれいになる。製紙会社も、輸入チップの量を減少させることができ、環境問題という点から見てもメリットがある。製材工場は、チップ価格が上昇すれば素材購入価格を引き上げられる。林地残材が素材チップとして販売でき、素材価格が上昇すれば、山に今以上お金を返せる。

これらについて理論的構築をお願したいし、行政サイドとして支援願いたい。官庁の使用紙に地域材比率も記載してもらえば、利用促進となるのではないかと。ロシア材関連では、素材の出材量が例年に比較して少ない、枯渇状態と言えらるのではないか。野縁需要が急増しているが、4材が足りない。間伐主体に移行しているのに素材生産量が落ちているのではないかと。需要は増えているが、素材がなければ応えることができない、など。

林野庁側は、林地残

い。このエリアから、ある制度を考えたい。地域材比率の表記は、間伐材をグリーン購入法のなかで、その位置付けたい。原木が少ないのは、主伐から間伐に労働力が移動し、作業能率が落ち、出材量が減少しているのかもしれない。そういう認識がなかったら、調査し対策を考えたい、と話した。

林野庁側は、林地残